



# Gakuvo

日本財団学生ボランティアセンター報告書

REPORT 2020

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

# Gakuvo とは・・・?

日本財団学生ボランティアセンター（通称 Gakuvo）は、全国規模で学生のボランティア活動を支援する団体です。様々な社会課題が露呈してきている昨今、市民活動の必要性は日に日に高まってきています。これからの社会を担っていく若者が、学生のうちからボランティア活動に取り組むことで、社会課題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、課題解決のために行動する人材を育成していきます。



## Gakuvo 理念

- 学生のボランティア活動を支援します。
- 学生ボランティアのスキルアップを支援します。
- 自分の携わったボランティア体験を、広く社会に伝えていく力の育成を目指します。
- ボランティア活動をととして、次世代を担う人材を育成します。
- 20年後の社会を見据えた活動を展開し、時代の「一歩先」を目指します。

## 代表挨拶

(2020 annual report)

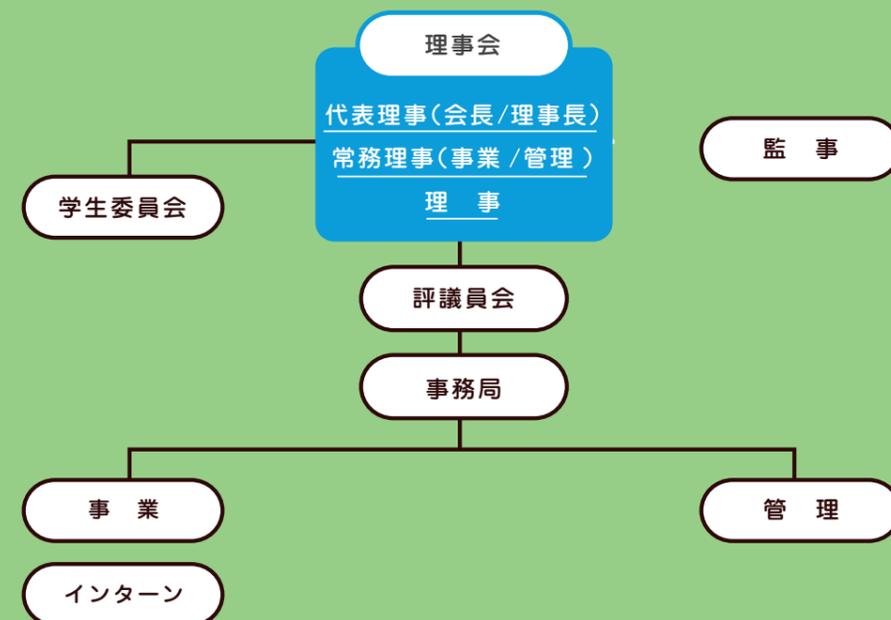
2020年度は早々に、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出され、学生の皆さんにとっては、日常生活に加え、学びの機会も影響を受けることとなり、大変な一年であったと思われます。

当センターは、学生のボランティア活動を推進し支援する団体ですが、コロナ禍では人と人が直接かかわる活動が困難となり、ボランティア活動そのものにも暗い影を落としました。そのような中でも、特に、ボランティアに携わっている学生からは、「これまで活動してきた現地の人と繋がりたい」「新しい形で何かできないか」といった声が上がりました。その前向きな姿勢に応えるべく、当センターはオンラインツールを駆使した活動支援やセミナーの開催等、新しい生活様式に対応した事業を展開し、改めて、学生の行動力に無限の可能性を見出した一年となりました。

未だ先行き不透明な状況が続いておりますが、当センターは、次世代を担う学生がボランティア活動を通じて社会参画し成長できるよう多面的にサポートしてまいりますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 日本財団学生ボランティアセンター  
代表理事（会長） 小宮山 宏

## 組織図



## 目次 - CONTENTS -

- 03 Gakuvoについて
- 04 代表挨拶 / 組織図
- 07 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部ボランティアセンター オンライン会議研修  
埼玉工業大学「ボランティアの研究」
- 08 令和2年7月豪雨災害ボランティア関連事業
- 09 プラチナ未来人財育成塾@オンラインのチューター派遣  
中央大学 岡山県倉敷市真備とつなぐ被災地オンライン活動
- 10 北海道教育大学函館校 厚真町での地域づくり支援実習  
大学ボランティアセンターとの協働プログラム
- 11 聖心女子大学 Ecoマスクプロジェクト  
オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島
- 12 「5分でまなぶ 学生災害ボランティア」動画公開開始  
ボランティア・シンポジウム
- 13 東京外国語大学 震災・洪水の被災地を学ぶ ～福島でのオンラインフィールドワーク～  
大学生ボランティア活動報告会「被災地と多摩地域の架け橋」
- 14 acare
- 15 インターン  
学生委員会
- 17 2020年度Gakuvo事業実績



2020年4月

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部  
ボランティアセンター オンライン会議研修

学生ボランティアコーディネーター向けに「オンライン会議を体験してみよう」と題して、青木将幸ファシリテーター事務所の青木氏を講師に迎えて、これから必須となるオンライン会議でのコミュニケーションのポイントについて学びました。Zoomの基本的な活用方法はもちろん、ビデオ ON で相手の話へハンドサインなどを使って反応することなどのオンラインでの立ち居振る舞いが重要であることを実践していきました。その後、同大学で実施したイベント・セミナーに活用されました。同様の講座は、まだ慣れないオンライン会議のためのトレーニングとして、センターでは他大学とも連携して複数回実施しました。



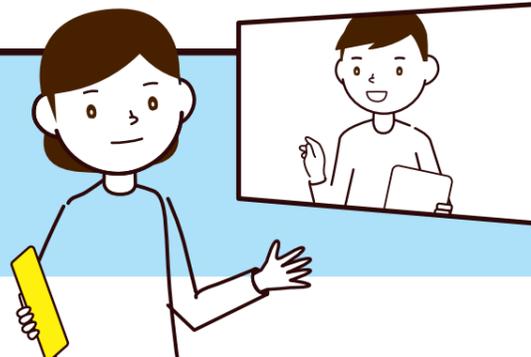
佐藤瑞希 (新潟青陵大学ボランティアセンターコーディネーター)

コロナ禍で直接集まることができず、3月からオンラインでのやりとりを始めていたのですが、あらためてツールの機能を含めて「きほんのぎ」を教わることで、その後に繋がりました。学生ボランティアコーディネーターは社会人よりもオンラインに熟達しており、6月に社会福祉法人と協力したイベントなどもリードしてくれました。早い段階で連携講座が実施できて、一歩先に行けたと考えています。

2020年5月~2021年1月

埼玉工業大学「ボランティアの研究」

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、5月20日時点で96.8%の大学が双方向型やオンデマンド型等にてオンライン授業を取り入れる状況となりました。(文部科学省 大学等における新型コロナウイルス感染症への対応状況について)  
大学によっては学生の顔出しを制限するところもあり、Zoomの双方向型で実施した埼玉工業大学の「ボランティアの研究」もその一つでした。学生の顔が見えない中、Zoomのチャットや投票機能などを利用し、学生とのコミュニケーションを図りながらの授業となりました。オンラインの利点も活かし、7月に豪雨被害を受けた地域の一つである熊本県人吉市へ災害支援に入っているゲストと繋ぎ、リアルタイムでお話をうかがうこともできました。



2020年7月~2021年3月

令和2年7月豪雨災害ボランティア関連事業

7月は全国的に大雨となり、なかでも7月4日~7日にかけての記録的な豪雨による甚大な被害を受けた熊本県において、熊本大学(以下、熊大)、熊本学園大学(以下、熊学)とも連携して活動を行いました。  
2021年3月までに熊大は20回、熊学は21回、Gakuvo主催でも11月に4回、合わせて合計45回391名を派遣しました。  
9月12日には、熊大の安部美和准教授と熊学の高木亨准教授にコロナ禍での災害学生ボランティアのコーディネートがうかがう会を行い、学生・教職員が集まりました。



チーム「ながぐつ」プロジェクト



熊本大学



熊本学園大学



諏訪原 夏海 (熊本大学)

発災直後の活動を皮切りに2021年3月までに何度も現地入りして、災害復旧のお手伝いをしています。2月は球磨村で2泊3日×3回の活動をしてきました。被災された方から活動現場に差し入れをいただいたり、活動後に入る温泉でも話しかけてくれたり。「コロナ禍だし、PCRを受けていたとしても、外から来たことがわかったら…」と不安がありましたが、受け入れてくれました。出会った方々に会いたくて、これからも現地に向かいます。

2020年8月 / 2021年3月

## プラチナ未来人財育成塾@オンラインのチューター派遣

今後の社会を担う中学生を対象とした育成塾。昨年度、夏に東京都世田谷区、冬に熊本県菊池市で実施しましたが、今年度は夏冬ともにオンラインで実施され、大学生チューターも自宅から中学生のグループワークの進行などを行いました。チューターたちは、事前の研修やミーティングなどもオンラインでコミュニケーションを行い、チームをつくり、気持ちを高めていきました。

### プラチナ未来人財育成塾@オンライン

日程：2020年8月15日(土)、8月16日(日)、  
8月22日(土)、8月23日(日)

参加者：26名 学生チューター：22名

### 2021年春期プラチナ未来人財育成塾@オンライン

日程：2021年3月25日(木)、3月26日(金)

参加者：42名 学生チューター：9名



喜多 亮介 (東北大学)

小中高の学習支援ボランティアなどしており、不安もありつつ挑戦する気持ちで申し込みました。今までに経験したことのない難しいファシリテーションが必要となるのが研修でわかりましたが、中学生が楽しい！学べた！となるように、本番でも主体的に動きました。要所々々での声かけなどで、満足のいくグループワークに出来たと思っています。この経験が自信にもなりました。

2020年9~11月

## 中央大学 岡山県倉敷市真備とつなぐ被災地オンライン活動

中央大学ボランティアセンター公認団体「ふらっと真備」は、2020年9月と11月に、オンライン機器を利用しこれまでの活動で関わってきた方々と交流の時間をもちました。「ふらっと真備」は、2018年に発生した西日本豪雨災害の復興支援活動を継続している団体です。新型コロナウイルス感染拡大のため、現地に赴いての直接の交流ができない中、団体と活動地域の関係性を継続するために企画をしました。2回目に実施した交流会では、手先を使った体操、ハンカチアート、折り紙などを、画面越しにコミュニケーションをとりながら行ない、良い雰囲気の交流会となりました。



阿佐美 有沙 (中央大学)

現地での活動が行えない中、オンライン交流会で住民の方々に喜んでいただけたことが何より嬉しかったです。オンラインを通して住民の方々との繋がりを絶やさず、私たちにできることをこれからも行っていきたいです。

2020年8~9月

## 北海道教育大学函館校 厚真町での地域づくり支援実習



地域政策ボランティア実習 I として、8月末から9月半ばにかけて、2018年9月の北海道胆振東部地震の被害が大きかった北海道勇払郡厚真町にて活動しました。2週間ほど学生が共同生活をしながら、いぶり自然学校での馬のお世話、しいたけや地域の特産物ハスカップの収穫、学童施設でのこどもとの交流、こども園での遊具づくりなど、人々との関わりを通して、コミュニティの重要性に気付いていきました。



2020年9月~2021年3月

## 大学ボランティアセンターとの協働プログラム

長引くコロナ禍によりボランティアが必要な場所に赴いて活動するのが難しいままの大学や学生団体が多い一方で、オンラインでのコミュニケーションにおける経験値は蓄積していきました。8月以降、様々なテーマで大学と連携したオンラインイベントを行いました。こんな状況だからこそ、距離の制約を受けずに遠くにいるゲストとやりとりすることができたということも言えるでしょう。Gakuvoでは、今後の状況がどうであれオンラインを120%活用していきます。



和田 更紗 (明治大学ボランティアセンターコーディネーター)

オンラインだからこそ、第三の居場所としてのボランティアセンターの可能性が垣間見えました。毎週定期的にオープンしたオンラインボラセンは、これまで同様に活動マッチング機能を担い、対面では成し得ない4キャンパスを超えた交流機会も創出、全国各地の卒業生とも繋がりました。参加者の表情が明るくなっていったのが印象的だったオンラインでの場づくりによって、ボラセンの価値を再確認することにもなりました。アフターコロナでの更なる展開も見据えていきます。

2020年8月~2021年3月

## 聖心女子大学 Eco マスクプロジェクト

聖心女子大学では、福島県南相馬の現状と課題を理解し、地域の人々の思いを共に分かち合うことを目的として、学生が定期的に福島県南相馬市を訪れ、地域の活動に参加をしていました。新型コロナウイルス感染症拡大のため活動が全て休止となり、活動再開の目途が立っていない中、被災地と大学を結ぶ活動として、南相馬市「和サロン真こころ」(以下真こころ)の協力のもと、2020年8月より「Eco マスクプロジェクト」を開始しました。真こころのみなさまの指導のもと学生が布マスクを製作し、そのマスクを頒布する際に献金を受け取り、真こころの活動資金として寄付をするというものです。新型コロナの感染が拡大し始め、マスク不足が発生していた際に、真こころの方々より、手作りの布マスクをいただいたことが活動開始のきっかけとなりました。この活動を通じて、南相馬を身近に感じ、抱える問題を共有することを目指して活動しています。



藤原 優音 (聖心女子大学)

私は地元・東北に少しでも役に立ちたいという思いからこの活動に参加しました。活動当初は製作について不安もありましたが、そんな私達に和サロン真こころの松野様が協力してくださりました。マスクを多くの方の手にとっていただき少しでも復興の役に立てるよう、これからも活動を続けていきます。

2020年10月~2021年2月

## オンライン版 チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

令和元年台風19号で大きな被害を受けた福島県いわき市。東日本大震災を契機に、2013年から続けているいわき市への学生ボランティア派遣チーム「ながぐつ」プロジェクトですが、新型コロナウイルス感染症の影響で現地での活動ができていませんでした。このままの現状を変えよう！そんな思いから、お世話になっているいわきの方々とも相談し、学生と現地の方との繋がりをつくるプログラムをオンライン版として実施しました。現地の方から当時や現在の様子、ご自身が行っている支援内容をうかがうことで学生の学びを深め、また、いわきの農業を盛り上げるべく、農家さんからうかがったお話や取り扱っている商品を、SNSを利用して発信し広める活動などを行いました。



斉藤 英恵 (国際医療福祉大学)

いわきの方にお話を聞く中で、震災を理解したつもりで他人事と捉えていたことを実感しました。そして、ふるさとを盛り上げるために懸命に努力されていること、その思いを受け止める大切さに気づき、自分にできることを考えるきっかけになりました。



2020年12月

## 「5分でまなぶ 学生災害ボランティア」動画公開開始

学生が災害ボランティアとして活動する前に、大事なおきたい考え方や基礎知識が学べるよう、災害ボランティアに見識の深い方や各業種の専門家の方々からのコメントもいただき、6つの動画を制作しました。「きほんのき」「心と身体の健康」「装備と持ち物」「一日の流れ」「出発前の心構え」「活動の振り返り」気軽に見られるよう、各5分ほどの動画にまとめています。



2020年9月~2021年2月

## ボランティア・シンポジウム

これまでのように年に1回、全国の学生が一堂に会して対面で行うことが難しい状況のなか、こんな時だからこそ、学生同士がつながる意義があると考えて、形式・回数を変更して実施しました。9月から2月にかけて、7回に渡って様々なテーマを取り上げてオンラインで開催しました。文章力向上やオンラインツール活用といったスキルアップにつながるトレーニングから、ジェンダーや地域をテーマにして考えを深めていくワークショップまで、全国の学生や教職員が集いました。



大野さくら (中央大学)

今年からGakuvonoのいろいろな活動にかかわり、ボランティア・シンポジウムでは、2つの企画に参画しました。「ながぐつ」で霜村さんや未来会議に興味を持ち、「引き寄せ、対話の場のチカラ」を実施したことで、対話の際の相手のことをより考えるようになりました。ジェンダーは関心のあるテーマの一つでしたが、「性差の日本史ワークショップ」を通して、それまで無かった歴史からの視点を得ることができ、たくさん考えさせられることができました。これらを通して多くの知識を行動につなげていきます。

2020年2月

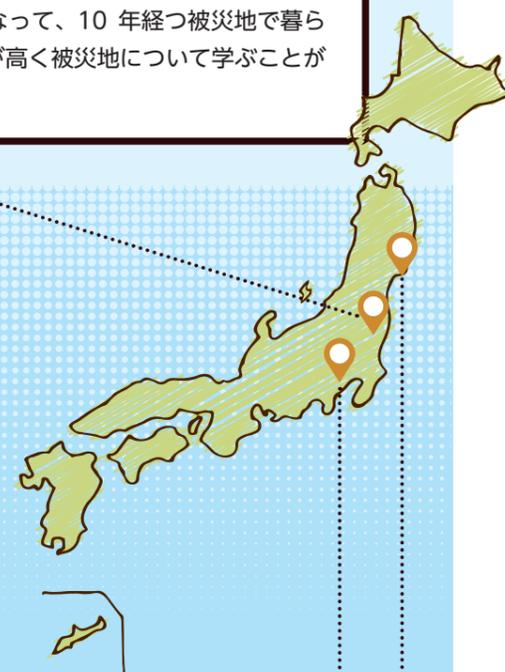
## 東京外国語大学 震災・洪水の被災地を学ぶ ～福島でのオンラインフィールドワーク～

「ハザード・スタディーズ（震災文学・災害と防災・原発）」を主軸に、震災後10年経てなお地震・津波・原発事故と向き合い、さらに2019年の台風被害も受けた福島の方々から被災、就業等について学びました。福島とオンラインで接続し、支援者や現地の農家、原発事故の啓発活動等を行なっている方へ主体的に直接インタビューすることで、震災後10年の現地の状況を理解し、学習しました。インタビュー内容は「聞き書き」という手法により一つの記事にまとめることで、現地の方々の置かれた状況や考え方等の理解の深化に繋げることができました。



田代 純一（東京外国語大学 非常勤講師）

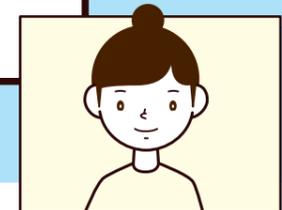
今年度はコロナ禍より、現地へボランティアへ行くことができませんでした。ただ逆にオンライン授業となったことにより、いわき・東京・カリフォルニアをリアルタイムでつなぎ授業ができました。日米の学生が一緒になって、10年経つ被災地で暮らす方々にインタビューさせていただき、より解像度が高く被災地について学ぶことができたと思います。



2020年3月

## 大学生ボランティア活動報告会 「被災地と多摩地域の架け橋」

東日本大震災から丸10年を迎える2021年、東京都多摩地区の大学5大学、日野市社会福祉協議会、日野市役所との協働ネットワーク「ボラネット多摩」が実施する、震災の風化防止および防災意識の啓発のためのイベント「被災地と多摩地域の架け橋」をオンラインにて実施しました。ゲストに宮城県石巻市より佐藤敏郎氏（Smart Supply Vision 理事 兼 特別講師）をお迎えし、震災復興活動に携わる大学生とのトークセッションや、各大学の被災地で活動する学生団体11団体の動画を配信し、多くの人に視聴していただきました。



## インターンが作るウェブメディア 「acare (アクア)」

今年のテーマは「大学生とコロナ」。コロナ禍における大学でのオンライン授業や課外活動の制限など、大きな影響を受けた大学生。そんなオンライン授業について学生や先生の生の声を聞き、さらに今後のオンライン授業のあり方・学びの可能性について考える記事としました。<<https://gakuvo.jp/acare/2020/>>

取材先 聖学院大学政治経済学部 准教授 若原 幸範 先生 | 近畿大学総合社会学部 准教授 西尾 雄志 先生

### 良かったこと

自分の時間が  
出来た

交通費が  
かからない。

アーカイブの残る授業は  
非常に受けやすい

何度も視聴できる、  
一時停止ができる、  
都合の良い時間に見られる

### 良くなかったこと

つまらない/  
飽きてしまう

課題が  
多すぎる

周りとの  
コミュニケーション  
が減る

学費に見合った学びが  
できているか疑問に思う

※学生アンケート回答から抜粋

### 先生から学生へのメッセージ

今の状況を否定的に考え何もしないのでなく、出来る事を考え前に進もう。  
この環境で生まれた物も少なくないはず。  
まさに今こそ、環境適応が求められるのではないかな。

コロナ禍では、自主的な学ぶ姿勢の重要度が増します。  
それと同時に心身の健康はすべての基礎です。  
健康を維持しつつ、どうか積極的に楽しく学びを続けてください。

# インターン



**玉之内 苺**  
聖学院大学 心理福祉学部  
心理福祉学科 3年

● やってみたいこと、経験したいこと

同じ様な考えや悩みを持った学生同士の繋がりを作る企画を行いたい。また、自分の活動でもある被災地支援をチームとGakuvoを繋げて活動してみたい。

● 1年後どんな自分になっていたいか

1年間のインターンを通して、柔軟性、適応力や協力性をもっと高めたい。高めて、少しでも何かの役に立てられれば。

● インターンを終えてみて

インターンを始めるときに掲げた目標は、達成できたこともある。自分自身の柔軟性や適応力などは、1年前よりかは成長をしているのではないかと感じている。

インターンも代表を務めた団体も、活動が制限されたりオンラインになったりと思うようにいかないことも多かった。しかし、acareの編集長や学生委員会などGakuvoのインターンをやっていなければ出来なかった経験をする事ができたと思う。大変な事も多かったが、貴重で充実した時間を過ごす事が出来て想像以上に楽しかった。



**中田 諒**  
日本大学 法学部 法律学科 3年

● やってみたいこと、経験したいこと

ボランティアをしている学生が一番求めている場所は、同じ熱量の人と情報交換できる場だと思う。ボランティアをしていく中で考え方・価値観の違いを感じ不満を持っている学生や自分の経験や考え方を共感してくれる人を探している学生が多いのではないかなと思う。学生同士がインプットしたものをアウトプットでき、尚且つ多角的な視点から考え方を深めていくことが可能な場を、Gakuvoを通じて作り上げたい。

● 1年後どんな自分になっていたいか

Gakuvoでのインターンを通し、主体性を持ち、心や時間に余裕のある器の大きい人間になっていた。また、自分だけではなく他人にも影響やキッカケを与えられる、「信頼」のおけるヒトにもなりたい。

● インターンを終えてみて

このインターンを経て、1年前の自分よりも一回り大きな人間になれたと思う。また、コロナ禍という先行きが不透明の中、インターンの仲間と試行錯誤をしながら1年間走り切ったことは、立派な功績である。そして、インターンを通じ、様々な方と出会い、相手の価値観を自分の思考に反映させることで視野が広がり、自己成長を促すことにもつながった。今後はいかなるピンチも、前向きに捉えることで、自分の道を切り開いていきたい。



**古橋 理久**  
日本大学 経済学部 経済学科 3年

● やってみたいこと、経験したいこと

台風や地震などで被害に遭われた地域への訪問やお手伝いなど、被災された方々の力になれることをしていきたい。

● 1年後どんな自分になっていたいか

感謝を忘れず、自ら行動を起こせる人間でありたいと思う。

● インターンを終えてみて

インターンを始めてからこの一年で確実に成長できた面はあると感じている。逆に足りない部分、もう少し伸ばさなければいけない部分も自分なりに分かった。自主企画から始まりacareとこれまでの大学生活では経験できないことをたくさんさせてもらい、多くの事を学ばせてもらった。特にacareでは、大変だったことの方が圧倒的に多かったが、非常に充実していたと思う。



**安江 麻帆子**  
日本大学 生物資源科学部  
食品ビジネス学科 2年

● やってみたいこと、経験したいこと

自分が実際に経験し、感じたことをより多くの方に伝えるためのノウハウ、どのようにアクションを起こせば興味関心を抱いてくれるのか学びたい。

● 1年後どんな自分になっていたいか

多様な価値観や考えに触れ、広い視野を持った人になっていた。

● インターンを終えてみて

このインターンを通して1 番学んだことは、「人との繋がり」の大切さだ。コロナの影響もあり、対面ではなくオンラインでの活動がメインになってしまい、モチベーションを保つのが大変だった。そんな中でも、同じ目標に向かって頑張る「仲間」がいたことで、最後までこのインターンをやり切ることができた。また、この不安定な時代だからこそ「人との繋がり」がもつ価値を改めて考え直すことができたのではないかなと思う。この貴重な経験を、今後の人生に幅広く生かしていきたい。



**綿貫 りら**  
早稲田大学 法学部 3年

● やってみたいこと、経験したいこと

働く親をもつ小学生が過ごす時間をもっと豊かにするイベントをするなど、子供がもっと様々な体験ができるようなことを企画したい。

● 1年後どんな自分になっていたいか

指示を待つ人間ではなく、常に自分の意見を持って主体的に行動できる自分になりたい。

● インターンを終えてみて

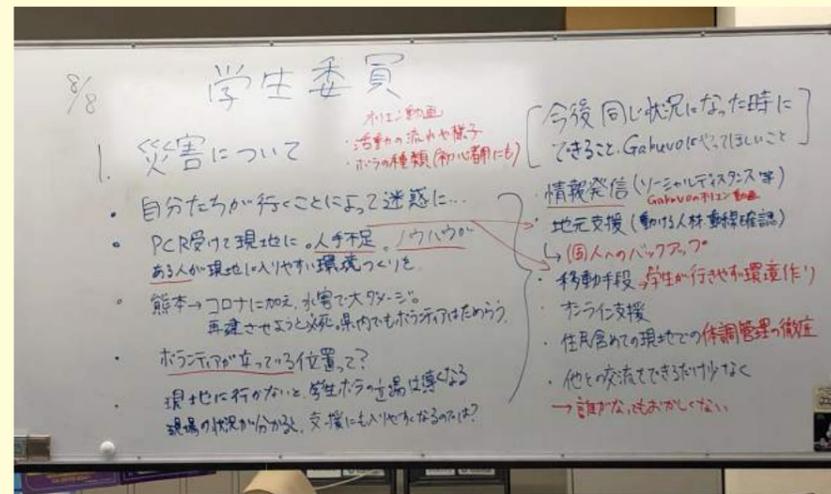
1年間のインターンを通して、「物事に対して自分の意見を持ち、発信する力」を得ることができたと考えている。何かについて話し合うときに、メンバー同士が主体的に意見を発信しあうことで活発な議論となり、より自分たちが達成したい目標に近づけていく楽しさを学ぶことができて、とても有意義な時間だった。

## 学生委員会



Gakuvo の事業運営に学生の様々な意見を取り入れるべく、理事会の諮問機関として設置されて6 期目。委員は、地方大学在籍者や留学生、Gakuvo プログラム参加者、学生団体の代表などの6 名で構成されています。

4 回の委員会を中心に意見交換を行い、それぞれが経験してきた活動や関心のある社会課題に焦点を当て、コロナ禍という状況下で見えてきた課題について主に議論を始まりました。議論していく中で気付いた課題や委員の経験によって得た気付きから課題は変化していき、コロナ禍における学生団体の様々な課題についてなど、意見・提案はより具体的なものとなりました。



## 2020年度Gakuvo事業実績

	セミナー・シンポジウム事業／インターン事業ほか	場所	学生ボランティア派遣事業	場所	大学等連携事業 ※50音順	事業名・授業名	期間	回数	場所
4月	インターン キックオフミーティング インターン オンライン会議研修	オンライン オンライン			追手門学院大学 聖学院大学 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部	社会問題リサーチ演習2 オンライン会議研修 オンライン会議研修	～8月 1日 1日	14回 1回 1回	オンライン オンライン オンライン
5月	監事監査	東京都			青山学院大学 聖学院大学 聖学院大学 埼玉工業大学 東北大学 立教大学	オンライン会議研修 オンライン会議研修(ボランティアリーダー向け) ボランティア体験の言語化技法と実践 ボランティアの研究 オンライン・ワークショップ入門 ボランティア論	1日 1日 ～7月 ～8月 1日 ～7月	1回 1回 13回 15回 1回 14回	オンライン オンライン オンライン オンライン オンライン オンライン
6月	第19回理事会 第1回学生委員会 第9回評議員会	書面決議 オンライン オンライン			聖学院大学 聖学院大学 了徳寺大学	学生サポートメンバー養成講座 釜石学における講師派遣 人間関係実践演習Ⅰへの講師派遣	1日 1日 1日	1回 1回 2回	オンライン オンライン オンライン
7月	第20回理事会	書面決議	プラチナ未来人財育成塾@オンライン チューター研修(1回)	オンライン	熊本学園大学 熊本学園大学 熊本大学 東北大学	コロナ禍での熊本地震支援と熊本豪雨の活動のためのセミナー 令和2年7月豪雨災害ボランティア 令和2年7月豪雨災害ボランティア ボランティア入門講座	1日 ～3月 ～3月 1日	1回 21回 19回 7回	熊本県 熊本県 熊本県 オンライン
8月	第2回学生委員会	東京都、 オンライン	プラチナ未来人財育成塾@オンライン チューター研修(3回) プラチナ未来人財育成塾@オンラインのチューター派遣	オンライン オンライン	聖学院大学 聖心女子大学 中央大学 東北大学 北海道教育大学函館校 北海道教育大学函館校	オンラインボランティアサポーター養成講座 Ecoマスクプロジェクト オンラインファシリテーション講座 多大学間・水害ボランティア講習会 学生ボランティア活動推進に関する協定の締結 厚真町での地域づくり支援実習	～9月 ～3月 1日 1日 4週間	2回 1回 1回 1回 1回	オンライン 遠隔 オンライン オンライン 北海道
9月	インターン 情報発信セミナー ボランティア・シンポジウム コロナ禍での学生災害ボランティアについて 熊本の2大学に聞く会	オンライン オンライン	プラチナ未来人財育成塾@オンライン チューター振り返り(2回)	オンライン	聖心女子大学 中央大学 中央大学 東部地域大学連携(福岡県)	ボランティア体験の振り返り 岩手県宮古市とつなぐ被災地オンライン活動 岡山県倉敷市とつなぐ被災地オンライン活動 学生ボランティア活動推進に関する協定の締結	～1月 1日 1日	14回 1回 1回	オンライン オンライン オンライン
10月	災害ボランティア養成セミナー(2回)	和歌山県	オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島 第1回	オンライン	中央大学 中央大学 東北大学 東北大学 明治大学 埼玉工業大学	現代社会分析II 実習 岩手県宮古市の方への支援活動に関するアンケート実施 被災地復興の課題に取り組む 東日本大震災からみる現代社会 オンライン講座 ボランティアの研究	2日間 ～11月 1日 ～1月 1日 ～1月	1回 1回 2回 5回 6回 15回	オンライン 遠隔 宮城県 宮城県、オンライン オンライン オンライン
11月	インターン 情報発信セミナー ボランティア・シンポジウム ボランティアのためのオンラインツール活用術 災害ボランティア養成セミナー(2回)	オンライン オンライン 和歌山県	オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島 第2回 チーム「ながぐつ」プロジェクト令和2年7月豪雨第1陣 チーム「ながぐつ」プロジェクト令和2年7月豪雨第2陣 チーム「ながぐつ」プロジェクト令和2年7月豪雨第3陣 チーム「ながぐつ」プロジェクト令和2年7月豪雨第4陣	オンライン 熊本県 熊本県 熊本県 熊本県	聖学院大学 大学コンソーシアムひょうご神戸 中央大学 中央大学 東北大学 東北大学 明治大学	新入生歓迎ボラTea 学生災害ボランティア・ネットワーク事業 現代社会分析II 実習 岡山県倉敷市とつなぐ被災地オンライン活動 2020年7月豪雨でつながる学生ボランティア活動報告会 SCRUM震災伝承ツアー オンラインボランティアセンター	1日 ～3月 1日 1日 1日 1日 ～3月	1回 1回 1回 1回 1回 1回 20回	オンライン オンライン オンライン オンライン オンライン 宮城県 オンライン
12月	ボランティア・シンポジウム 引き出し、対話の場のチカラ ボランティア・シンポジウム ボランティア体験を振り返り発信するための文章力向上講座 インターン 情報発信セミナー 第3回学生委員会	オンライン オンライン オンライン オンライン	オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島 第3回 オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島 第4回 5分でまなぶ 学生災害ボランティア 動画公開	オンライン オンライン オンライン	青山学院大学 青山学院大学 神田外語大学 東京外国語大学 東北大学 東北大学 和歌山大学	オンライン版「あすチャレ!Academy」 動物愛護団体系すあに講演会 オンライン版「あすチャレ!Academy」 学生ボランティア活動推進に関する協定書を締結 性の多様性セミナー 課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止のために 紀伊半島価値共創基幹との学生ボランティア活動推進に関する協定の締結	1日 ～2月 1日 1日 1日 1日	1回 3回 2回 1回 1回 1回	オンライン オンライン オンライン オンライン オンライン 宮城県、オンライン
1月	ボランティア・シンポジウム 大学生がコロナ禍に地域と関わり成長するメソッド	オンライン			中央大学 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部 明治大学	現代社会分析II 実習 オンライン版「あすチャレ!Academy」 卒業生と話そう!キャリアと学生時代のボランティア	1日 1日 ～2月	1回 1回 2回	オンライン オンライン オンライン
2月	第4回学生委員会 ボランティア・シンポジウム より伝わる作文のための文章力向上講座 インターン 自主企画「若手社会人と話そう!キャリアと就活とボランティア」	オンライン オンライン オンライン	オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島 第5回 オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島 第6回 2021春期プラチナ未来人財育成塾@オンラインチューター研修(2回)	オンライン オンライン オンライン	聖学院大学 東京外国語大学 中央大学 中央大学	新入生歓迎ボラTea 震災・洪水の被災地を学ぶ～福島でのオンラインフィールドワーク～ 文章力スキルアップ講座 大学生ボランティア活動報告会「被災地と多摩地域の架け橋」	1日 3日 1日 1日	1回 1回 1回 1回	オンライン オンライン オンライン オンライン
3月	第21回理事会 第3回全国学生ボランティアフォーラムへの協力 PR力コンテスト「V-1」審査委員会 webメディア「acare(アケア)」特集公開	書面決議 オンライン オンライン	2021春期プラチナ未来人財育成塾@オンラインのチューター派遣	オンライン	聖心女子大学 聖心女子大学	Ecoマスクプロジェクト 活動報告会 SHOC project 震災を振り返り考える講演会	1日 1日	1回 1回	オンライン オンライン